

(2) 「A話すこと・聞くこと」

A話すこと・聞くこと [小学校低学年]

【目標】

相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

【指導事項】

- ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。
- イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。
- ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。
- エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。
- オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。

【言語活動例】

- ア 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。
- イ 尋ねたり応答したり、グループで話し合っただけ考えを一つにまとめたりすること。
- ウ 場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡を合ったりすること。
- エ 知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。

【「話すこと・聞くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 与えられた中から話題を選ぶ。
- 事柄を順序に沿って聞き取る。
- ◆経験したことの中から自分で話題を決め、その時の様子や気持ちなどを思い出す。
- ◆大事なことを落とさないように相手の話を聞き取る。

【身に付けさせたい力】

- ①身近なことなどについて、大事なことを落とさないように聞く能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。 〈「話すこと・聞くこと」ア〉
- ③大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ④言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【言語活動例】 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。 〈ア〉

【単元名】 おてつだいを紹介しよう～経験したことを想起する・大事なことを落とさないように聞く～

【教材名・教材の特長】 「おてつだいを して いるよ」 (学校図書 2年上)

- ・身近なことや経験したことを話題とするため興味・関心が高まりやすい。
- ・「おてつだい」していることをどのように伝えたらよいのか、例が示されていて分かりやすく、必要な事柄を想起する手掛かりともなる。
- ・1「準備をしよう」、2「紹介をしよう」、3「感想を伝えよう」の構成になっていて、既習内容を活用しながら聞く力を身に付けることができる。

【言語活動】

手伝いをしたことについて友達に紹介したり、それを聞いたりする。 〈ア〉

【単元目標】

- ①「おてつだい」の様子や伝えたい気持ちを話したり、その話を聞いたりしようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②「おてつだい」の内容を決定し、その時の様子や気持ちを思い出す。 〈「話すこと・聞くこと」ア〉
- ③相手の話に関心を持ち、相手が伝えたい話の大事なことを落とさないようにしながら聞き、感想を述べる。 〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ④言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付く。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>学習のめあて「自分のおてつだい」を紹介することと、最後に、友達に感想を伝えることを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな手伝いをしたのか、その時どんな気持ちになったのか、教師と友達との質問を交えたやりとりを見る中で、「必要な事柄の思い出し方」を理解する。 ・聞いている児童は、板書を参考に質問のやりとりをできる範囲でメモをする。
2	②手伝いをした時の様子や気持ちを思い出している。 〈「話す・聞く能力」ア〉	ワークシート 交流場面	<p>ワークシート（教科書P.43）を利用して、「おてつだいたしたこと」と「どのような気持ち」を書き込み、紹介し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人以上の友達と交流をする。 ・質問し合うことで、「必要な事項」（お手伝いの様子やその時の気持ち）を思い出す。
3	④言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。 〈言語についての知識・理解・技能イ(7)〉	発表原稿 発表練習	<p>手伝いの内容を決定し、その時の様子や気持ちなどを思い出しながら話す順序の構成をし、ペアで発表練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル作文（教科書P.44,45）を読んで、言葉には経験したことを伝える働きがあることに気付く、使われている言葉の工夫などを見付け出す。 ・順序を表す言葉や、五感を通して感じたことなど、例文の工夫点や効果的な面を自分の作文にも取り入れる。 ・手伝いの内容や流れ、その時の様子や気持ち、会話などを具体的に思い出し、付箋を利用して分けて書いておき、組み立てていく。 ・原稿を書き、ペアで発表練習をする。 ・「声の大きさ」「くぎるところ」「話すはやさ」「はっきりしたはつ音」など、声のものさしの確認をする。
4	②「おてつだい」の内容を決定し、その時の様子や気持ちを思い出している。 〈「話す・聞く能力」ア〉		
5			
6	③相手の話に関心を持ち、相手が	発表	<p>友達の紹介を聞き、感想を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表前に聞き取りカードを配り、書き込む内容を確認することで、話し手、聞き手の視点を持つ。 ・練習後、グループ内発表をする。 ・グループ内でペアを替えながら複数回行う。 ・聞き手は、カードを使って、「おてつだいのないよう」など、必要なことを聞き取る。本人も自己評価として記入する。
7	伝えたい話の大事なことを落と	発表原稿	
8	さないようにしながら聞き、感想	聞き取りカード	
9	を述べている。 〈「話す・聞く能力」エ〉		
	①「おてつだい」の様子や伝えたい気持ちを話したり、その話を聞いたたりしようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉		
		振り返りカード	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・話すはやさ ・声の大きさ ・おてつだいのようすを聞いて思ったこと、じぶんもしてみたいと思ったことなど </div> <p>カードを使ってグループの中で聞き取った内容を確認し合う。 話題設定の仕方や話の聞き方について振り返る</p>

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②手伝いの内容を、例文を参考に様子や気持ちとに分けながら思い出そう助言する。〈ア〉
- ④「この言葉を使うと様子が分かるね。」など、言葉の働きを意識させる声掛けをする。〈イ(7)〉
- ③「〇〇のおてつだいをした〇〇さんへ」だけでも書くよう助言する。〈エ〉
- ①原稿をしっかりと書かせることで発表への自信を持てるようにする。また、お手伝いの「内容」と「気持ち」の二つに分けて聞き、メモをすることを助言する。〈国語への関心・意欲・態度〉

A 話すこと・聞くこと〔小学校中学年〕

【目標】

相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

【指導事項】

- ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。
- イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。
- ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。
- エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。
- オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。

【言語活動例】

- ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。
- イ 学級全体で話し合っただけで考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。
- ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること

【「話すこと・聞くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 話す速さ、声の大きさなど、聞き手を意識しながら話す。
- 必要な事柄について調べ、要点をメモする。
- ◆話を組み立てたり、筋道を立てて話したりする。
- ◆話の中心を聞き取ったり、聞いた内容から自分の思いや考えを広げたりする。

【身に付けさせたい力】

- ①調べたことについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②理由や事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと。 〈「話すこと・聞くこと」イ〉
- ③話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。 〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ④表現したり理解したりするために必要な語句を増すこと。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〉

【言語活動例】出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。〈ア〉

【単元名】ポスターセッションで発表しよう～理由や事例などを挙げながら話す・話の中心に気を付けて聞く～

【教材名・教材の特長】「ポスターセッションで発表しよう」（教育出版 4年下）

- ・ポスターセッションを実際に取り入れることで、「相手に分かりやすく話す」「友達の発表に対して質問や感想などを考えながら聞く」など、「話すこと・聞くこと」の意識を高めることができる。
- ・社会科見学後のまとめ、発表に活用できる。

【言語活動】

社会見学「消防署」のポスターセッションをしたり、それらを聞いて意見を述べたりする。〈ア〉

【単元目標】

- ①調べたことを分かりやすく筋道を立てて話そうとしたり、発表者の伝えようとしていることを聞き取ろうとしたりする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②ポスターを活用し、調べたことを、理由や事例を挙げながら相手に分かりやすく話す。 〈「話すこと・聞くこと」イ〉
- ③話の中心に気を付けて友達の発表を聞き、質問をしたり感想を述べたりする。 〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ④表現するために必要な語句を増やす。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2			<p>ポスターセッションについて学び、学習の見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオを活用し、ポスターセッションとはどういうものかを知る。また、どんな時に使えるのか、今後の活用場面なども考える。 ・伝えたいことを中心に合わせて「理由や事例」を入れたり、図や表を使いながら説明したりすることの効果を理解する。 ・ポスターセッションの進め方を確認する。 ・「ポスターセッションを通して消防署の全体を知ることができる」ことを確認する。
3 4 5 6 7	<p>②ポスターを活用し、調べたことを、理由や事例を挙げながら相手に分かりやすく話している。</p> <p>〈「話す・聞く能力」イ〉</p> <p>④表現するために必要な語句を増やしている。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(ウ)〉</p>	<p>構想メモ 発表原稿 ポスター 発表練習</p>	<p>調べたことをグループで発表原稿・ポスターにまとめる</p> <p>集めた材料を整理する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科で調べたことやインタビューしてきた内容などをグループで付箋に書き出す。(社会科との連携) ・書き出した付箋を整理し、発表する分担を決める。 <p>ワークシートを活用しながら構想メモを作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例や理由を入れながら、付箋の整理をする。 ・ポスターにする際、伝えたい内容に合わせて図表やグラフを示す位置を決める。 ・伝えたいことを中心に捉えて見出しを考える。 <p>構想メモを交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構想メモをグループ内で交流し、事例や理由が適切か、伝えたい内容と見出しが合っているかアドバイスし合う。 <p>構想メモを活用してポスターを作る</p> <p>構想メモを活用して発表原稿を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が事前に作成した「消防署用語集」から言葉を選択する。 <p>グループ内で発表練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「発表のとき」「発表を聞くとき」の大事な点を確認する。 ・ポスターにある資料を使って説明する。 ・話の中心に即した質問を予想し合い、本番に備えて「問答集」を作る。
8 9	<p>③話の中心に気を付けて友達の発表を聞き、質問をしたり感想を述べたりしている。</p> <p>〈「話す・聞く能力」エ〉</p>	<p>発表 ワークシート</p>	<p>ポスターセッションを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手は、話し手が伝えたいことの原因や事例を意識して聞き、ワークシートに聞き取ったことをメモし、意見感想などを記入する。また、声の大きさ、話す速度などをABCで評価する。 ・聞き手は、発表グループに対して感想を述べたり質問したりする。 ・質問されたグループは、それに答える。
10	<p>①調べたことを分かりやすく筋道を立てて話そうとしていたり、発表者の伝えようとしていたりすることを聞き取ろうとしていたりしようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>振り返りカード</p>	<p>ポスターセッションについて振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい中心に気を付けて、理由や事例を意識しながら話したり聞いたりできたか。

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②自分の意見を持てるよう、グループの人の考えを参考にしながら、自分でも付箋に書いたものを利用して組立てを考えたり、図や表の説明の位置は適切かなどを考えたりするよう助言する。〈イ〉
- ④難しい言葉や用語は、辞書を活用して自分の言葉に直すよう助言する。〈イ(ウ)〉
- ③話の内容で分かったことや分からなかったこと、また話し方の感想を伝えてもよいことを助言する。〈エ〉
- ①自分たちのグループに伝えたいことがあるように、他のグループにも伝えたいことがあることを教え、発表だけでなく、聞く方にも関心を高めるよう投げ掛ける。〈国語への関心・意欲・態度〉

A 話すこと・聞くこと〔小学校高学年〕

【目標】

目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

【指導事項】

- ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を集め、収集した知識や情報を関係付けること。
- イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。
- ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。
- エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。
- オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

【言語活動例】

- ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。
- イ 調べたことやまとめたことについて、討論などを行うこと。
- ウ 事物や人物を推薦したり、それを聞いたりすること。

【「話すこと・聞くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 資料を用いて理由や事例を挙げながら話す。
- 話の中心を捉えてメモし、話題に沿って質問をしたり感想を述べたりする。
- ◆目的や相手に応じて構成や内容を工夫しながら話したり、話し手の意図を理解しながら聞いたりする。

【身に付けさせたい力】

- ①目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。
〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。
〈「話すこと・聞くこと」イ〉
- ③話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。
〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ④文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(キ)〉

【言語活動例】事物を推薦したり、それを聞いたりすること。〈ウ〉

【単元名】すいせんのスピーチをしよう～話の構成を工夫して話したり、意図を捉えながら聞いたりする～

【教材名・教材の特長】「すいせんのスピーチをしよう」(教育出版5年上)

- ・聞き手を意識しながら内容や構成を工夫し、話す能力を身に付ける上で適している。
- ・「友達の本の推薦を聞く」活動によって、聞くことへの興味・関心を持たせることができる。
- ・日常生活の様々な事柄を推薦する場面において、身に付けた能力を生かすことができる。

【言語活動】

読んで面白かった本を推薦したり、友達の推薦する本の説明を聞いたりする。〈ウ〉

【単元目標】

- ①友達に自分の好きな本を推薦したり、友達の推薦の意図を理解しながら説明を聞いたりしようとする。
〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②聞き手を意識し、本の特徴や推薦する理由などが明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、適切な言葉遣いで話す。
〈「話すこと・聞くこと」イ〉
- ③推薦の意図を捉えながら聞き、構成や内容について自分の意見や感想をまとめる。
〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ④文章にはいろいろな構成があることについて理解する。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(キ)〉

A 話すこと・聞くこと〔中学校第1学年〕

【目標】

目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。

【指導事項】

ア 日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。

イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。

ウ 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。

エ 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。

オ 話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。

【言語活動例】

ア 日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。

イ 日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。

【「話すこと・聞くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○声の大きさや速さ、間の取り方に注意して話す。

◆相手の反応を踏まえながら話したり、話し手の意図を考えながら聞き、自分の考えと比べたりする。

【身に付けさせたい力】

①目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。
〈国語への関心・意欲・態度〉

②全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。

〈「話すこと・聞くこと」イ〉

③必要に応じて質問しながら聞き、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。〈「話すこと・聞くこと」エ〉

④音声の働きや仕組みについて関心を持ち、理解を深めること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【言語活動例】日常生活の中の話題について討論を行うこと。〈イ〉

【単元名】ディベートをしよう～話し合いの方法を学び、話し合って考えを深める～

【教材名・教材の特長】「討論ゲームをしよう」〈ディベート〉(三省堂 1年)

・小学校で経験した「討論会」の学習を生かすことができる。

・少人数によるディベートのため、全員が話す立場、聞く立場、コーディネートする立場を経験することができる。

・日常生活に密着したテーマを選ぶことで実感を伴ったディベートにすることができる。また、話し合っ
て得た考えを今後の生活に生かすことができる。

【言語活動】

学校生活上困っていることについてディベートを行う。〈イ〉

【単元目標】

①学校生活上困っていることについて話し合い、今後の生活に生かせるように考えをまとめようとする。
〈国語への関心・意欲・態度〉

②論点や根拠を明確にして、相手の反応を踏まえながら話す。〈「話すこと・聞くこと」イ〉

③自分の立場と異なる相手の論点を的確に聞き取り、反論につなげる。〈「話すこと・聞くこと」エ〉

④音声の働きや仕組みに注意し、ディベートの場面に適した音量や抑揚などで話す。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1	<p>ディベートの流れ</p> <p>1 最初の主張 2 相談 3 反論 4 相談 5 最後の主張 6 判定</p>		<p>ディベートの見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で学習した討論会を思い出し、資料を参考にディベートの流れ、「話すとき」「聞くとき」「司会（フロア）のとき」にそれぞれ注意すること、自分とは異なる考え方に触れて意見を深めたことを確認する。 ・事前アンケート「学校生活で困っていること」からディベートのテーマを学級全体で三つ選ぶ。 ・3人1グループを作る。3グループが1集団となり、役割を交代しながらディベートを行うことを知る。 ・テーマについて、賛成・反対の立場を割り振る。自分の感情や価値観にとらわれず客観的な見方をすること、議論の仕方・説得の仕方を学習する場であること、ディベートを通して多面的なものの見方や考え方を身に付けることを確認する。
2 3 4 5	<p>②論点や根拠を明確にして、相手の反応を踏まえながら話している。</p> <p>〈「話す・聞く能力」イ〉</p> <p>③自分の立場と異なる相手の論点を的確に聞き取り、反論につなげている。</p> <p>〈「話す・聞く能力」エ〉</p> <p>④音声の働きや仕組みに注意し、ディベートの場面に適した音量や抑揚などで話している。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(7)〉</p>	<p>ワークシート</p> <p>評価シート (聞き取りメモ)</p> <p>評価シート (聞き取りメモ)</p>	<p>ディベートの準備をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張は論点を整理し順序よく話すこと、誰もが納得できるような根拠を示すこと、接続語を効果的に用いることなどを確認する。 ・一つめのテーマについて各自立論を考えた後、グループで紹介し合う。グループとしての意見をまとめ、「最初の主張」にする。 ・相手の主張を予想し、それに対してどのような反論ができそうか、最後にどのようなことを主張するか考え、グループとしての意見をまとめる。 ・「最初の主張」「反論」「最後の主張」を役割分担する。 ・グループで話し合ったことを基に、説得力のある話の構成と話し方になるよう各自考える。その後、聞き合い助言し合う。 ・二つめのテーマについても同様に準備する。 <p>モデルディベートで評価の視点を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すとき」「聞くとき」「司会（フロア）のとき」に注意すること（視点）と、議論の仕方を学ぶというディベートの目的を確認する。 ・代表の集団がディベートをする。それ以外の集団は、視点に沿って、話の構成や話し方に説得力はあるか、相手の論点を的確に聞き取り反論につなげているか、メモを取りながら評価シートに記入する。 ・モデルのよかったところや改善案について話し合い、自分たちのディベートに生かせる点は取り入れる。 <p>ディベートを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団ごとディベートを行う。最後に司会グループが判定をし、視点に沿って論評を述べる。ディベートを行ったグループは自己評価する。 ・他のテーマについても同様に行う。
6	<p>①学校生活上困っていることについて話し合い、今後の生活に生かせるように考えをまとめようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>振り返り用紙</p>	<p>ディベートのまとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三つのテーマについて立場を離れて自由に意見を述べ合う。 ・それぞれ相手の意見を踏まえて話すことについて、どんな点に気を付けるとよかったか話し合う。 ・テーマ及び話し合い方について、ディベートを通して自分の考えが変化したことに注意して振り返りを書く。

【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②思い付いたことを付箋に書き出させ、選択したり並び換えたりして効果的な主張になるように話す順序を考えさせる。〈イ〉
- ③モデルディベートについて、聞き取った内容を尋ねる。聞き取りが不足する場合は、具体的な内容を提示する。〈エ〉
- ④自分の述べる意見についてキーワードを決めさせ、そこを強調して話してみるよう助言する。〈イ(7)〉
- ①討論を通して新たに考えたことを尋ねる。また、誰の話し方・聞き方がよかったか尋ねる。〈国語への関心・意欲・態度〉

A話すこと・聞くこと〔中学校第2学年〕

【目標】

目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力、考えを比べながら聞く能力、相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。

【指導事項】

- ア 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。
イ 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。
ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。
エ 話の論理的な構成や展開などに注意し、自分の考えと比較すること。
オ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。

【言語活動例】

- ア 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。
イ 社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うこと。

【「話すこと・聞くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 話し合いの話題を捉えて的確に話す。
- 相手の発言を注意して聞いて、自分の考えをまとめる。
- ◆相手の立場や考えを尊重する。
- ◆互いの発言を検討して自分の考えを広げる。

【身に付けさせたい力】

- ①相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。
〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。
〈「話すこと・聞くこと」オ〉
- ③相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開の違いがあることを理解すること。
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

【言語活動例】社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うこと。〈イ〉

【単元名】パネルディスカッションをしよう～目的に沿って話し合い、自分の考えを広げる～

【教材名・教材の特長】「パネルディスカッションをしよう」（三省堂 光村図書 2年）

- ・相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合うことができる。
- ・自分と異なる考え方に触れる機会となる。

【言語活動】

テーマについてパネルディスカッションをする。〈イ〉

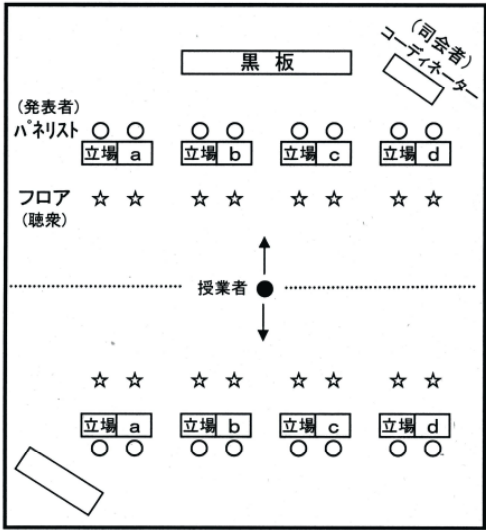
【単元目標】

- ①相手の立場や考えを尊重してパネルディスカッションをしようとする。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②相手の考えを尊重し、テーマに沿ったパネルディスカッションをし、互いの発言を検討して自分の考えを広げる。
〈「話すこと・聞くこと」オ〉
- ③異なる立場や考えの人に自分の意見が理解され、納得してもらえるよう述べ方や構成を工夫する。
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

【Cと評価した生徒への手立ての例（右記の評価規準の順）】

- ③自分の言いたいことを付箋に書かせ、言いやすい順番に並べるよう助言する。〈イ(オ)〉
- ②自分とは違う立場のグループの考えを聞き取るよう助言する。〈オ〉
- ①考え方には、様々なものがあることを教える。〈国語への関心・意欲・態度〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2	<p>パネルディスカッションの流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめの言葉(コーディネーター) 2 パネリストの発表 3 パネリストの相互の質問・意見交換 4 フロアからの質問・意見 5 パネリストからのまとめ 6 終わりの言葉(コーディネーター) 		<p>パネルディスカッションについて学び、学習の見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオを活用し、パネルディスカッションとはどういうものかを知る。また、どんな時に使えるのか、今後の活用場面なども考える。 ・教科書でパネルディスカッションの進め方を確認する。司会や提案者などの役割については、小学校での既習内容であることから、復習として確認する。 ・パネルディスカッションをする目的や行う際の留意点等を確認する。 <ol style="list-style-type: none"> ①相手の立場や考えを尊重する。 ②同じ立場や違う立場の考えを聞いて、自分の考えを広めたり、考え直したりする。 ・テーマと立場の例を参考に、自分たちのクラスで挑戦してみたいテーマと考えられる四つの立場(a～d)を想定し決定する。 例・海外の中学生に日本を紹介するとしたら、何を取り上げるのがよいか。(a 豊かな自然・b 進んだ技術・c 伝統的な文化・d 名所) <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツをする目的とは何か。 (a 心身を鍛える・b 相手に勝つ・c 楽しむ・d 自分の世界を広げる) ・最も優れた飲料容器は何か。(a 缶・b 瓶・c 水筒・d ペットボトル) ・地球温暖化の抑制のために最も力を入れるべきことは何か。 (a 全車エコカー化・b 環境税の導入・c サマータイム導入・d ゴミの定量制限) ・命を大切にすることを育てるためには、どんな体験学習をするのがよいか。(a 生物飼育・b 映画鑑賞・c 保育園訪問・d 救命救助講習)
3 4	<p>③異なる立場や考えの人に自分の意見が理解され、納得してもらえるよう述べ方や構成を工夫している。 (言語についての知識・理解・技能イ(ハ))</p>	発表原稿	<p>資料を集める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四つの立場が2グループずつになるように分ける。 例：32人学級の場合 4人×8グループ(4立場×2グループ) ・決定した自分たちのグループの立場を支えてくれるような資料や情報を、新聞や書籍、雑誌、インターネットなどから集める。(個人学習→グループ集約→発表役割分担) <p>発表内容を組み立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を分かりやすく、短くまとめて示す。簡潔に示せるようポスターなどにキーワードや必要な情報(グラフや表など)を書く。発表の際、活用する。 ・根拠として提示する情報は、どこから入手したのか(情報源)を示し、自分の意見を支える内容であることを明らかにする。 ・異なる立場や考えの人に自分の意見が理解され、納得してもらえるよう、述べ方や構成を工夫する。 <p>役割を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネリスト(発表者)の内容を確認し順番を決める。同じ立場のグループ同士で、パネリストの発表内容や異なる立場や考えの人とどのように討論するか、相談する。 ・同じ立場のグループ同士で発表練習する。質問などの対策も考えておく。 ・コーディネーター(司会者)を選ぶ。 ・コーディネーター、パネリスト以外は、フロア(聴衆)として討論に参加する。 <p>パネルディスカッションを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2箇所まで2回行い、全員がパネリスト、聴衆役を経験できるようにする。 ・話し合いの目的や留意点を確認する。 ・教科書にある「パネルディスカッションの流れ」に沿って、話し合いを進める。 ・パネリストの主張や根拠を自分の考えと比べながら検討し、自分の考えを広げ深めることを確認する。 ・評価用シートを活用し、メモを取っていくことを確認する。 <p>パネルディスカッションについて振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目① 相手の立場や考えを尊重しながらパネルディスカッションをすることができたか。 [A B C D] ・項目② 同じ立場や違う立場の考えを聞いて、自分の考えの広がった点や変わった点などについて記入する。
5 6 7	<p>②相手の考えを尊重し、テーマに沿ったパネルディスカッションをし、互いの発言を検討して自分の考えを広げている。 (「話す・聞く能力」オ)</p> <p>①相手の立場や考えを尊重してパネルディスカッションをしようとしている。 (「国語への関心・意欲・態度」)</p>	発表 評価シート 振り返りカード	



A 話すこと・聞くこと〔中学校第3学年〕

【目標】

目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて相手や場に応じて話す能力、表現の工夫を評価して聞く能力、課題解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。

【指導事項】

- ア 社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする事。
- イ 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。
- ウ 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること。
- エ 話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。

【言語活動例】

- ア 時間や場の条件に合わせてスピーチしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすること。
- イ 社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うこと。

【「話すこと・聞くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○相手の立場や考えを尊重し、互いの発言を検討して生かそうとする。

◆話し合いの進行の仕方を工夫し、互いの意見のよさと課題を区別しながら効果的な話し合いを行う。

【身に付けさせたい力】

- ①目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて、課題解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。 〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ③敬語を適切に使うこと。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【言語活動例】社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うこと。〈イ〉

【単元名】課題解決に向けて話し合おう～説得力のある意見を述べ合う～

【教材名・教材の特長】「意見を生かして話し合うには一説得力のある意見を述べ合うー」(教育出版 3年)

- ・話題設定において、「総合的な学習の時間」等との関連を図ることができる。
- ・説得する上で考えの根拠を明確にし、論理的な話の構成を考える上で適している。
- ・建設的な話し合いをするために、司会や参加者の役割を考える上で適している。

【言語活動】

自分たちにできるボランティアについて、相手を説得するために意見を述べ合う。〈イ〉

【単元目標】

- ①学級で取り組むボランティア活動について、聞き手を説得するために意見を述べ合い、考えを深めようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの意見を生かし合う。 〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ③敬語などの丁寧な言い方を理解し、場面に応じて使う。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>話題を設定し、話し合うことへの見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」での福祉学習を想起させ、自分たちができることについて話し合う。(総合的な学習の時間との連携) ・話題を決定し、話し合いの目的を明確にする。 <p>「今、私たちにできるボランティア」について、グループごとに取組を提案し、それを基にクラスで提案する内容を決めていくことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書にある『「対話」とは何か(多田孝志)』を読み、話し合うことの意味や姿勢について理解する。 ・モデルとなる話し合いの様子を表した映像と文章を基に、「提案することの意味や特徴、効果的な司会の進行の仕方や互いの意見を生かす話し合いの仕方、結論の出し方、言葉遣い(敬語)について考える。
2	②話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの意見を生かし合っている。	ワークシート	<p>提案内容を吟味し、話の順序や予想される質問等について考えるなど、提案に向けての準備をグループごとに行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会を中心に提案内容を吟味し、決定する。 例：市内の飲食店に、作成した点字メニューを置いてもらう。 ・提案理由として、「問題となっている事実」や「自分たちの提案内容の効果」等を明確にする。 ・提案するに当たっては、必要に応じて取材活動を行い、効果的な資料を作成する。 ・幾つかの質問や反対意見を想定し、回答を考える。 ・話の順序を決め、役割分担をする。
3	③敬語などの丁寧な言い方を理解し、場面に応じて使っている。		
4	〈「話す・聞く能力」エ〉		
5	①学級で取り組むボランティア活動について、聞き手を説得するために意見を述べ合い、考えを深めようとしている。	聞き取りメモ 評価シート	
6	〈国語への関心・意欲・態度〉		<p>話し合いをする(1回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会等の進行の仕方、話し合いの目的、話し合いの仕方や方向性、言葉遣い(敬語)について効果的な方法や適切な在り方等を確認する。 ・各グループが「進行」「提案」「話し合い出席者」「フロア(話し合いの仕方を評価)」の役を担当し、役割を交代しながら、繰り返して話し合いを進める。※5グループの場合は5回 ・質疑応答の中で、よいところを指摘し合ったり、意見の修正をしたりするなどして、提案内容に生かすようにする。 <p>話し合いを評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの提案ごとに、フロアの評価を参考に、話し合いの仕方について視点に即した評価を行う。 ・評価を次に生かし、話し合いの仕方を向上させる。 <p>話し合いをする(2回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出された提案の中から、最も効果的な内容を一つ決定し、学年に提案する。
7		振り返りカード	<p>自らの言語活動を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案の仕方、話し合いの仕方について振り返り、効果的な話し合いの仕方についてまとめる。

【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ②話し合いの手順や仕方を示し、それに従って話し合いを進行させる。(エ)
- ③互いの意見を理解したり尊重したりする上で、敬語を用いることの効果について考えさせる。(イ(ア))
- ①それぞれの提案内容のよさと課題を区別し、生かす方法を考えさせる。(国語への関心・意欲・態度)

A 話すこと・聞くこと〔高等学校 国語総合〕

【目標（国語総合）】

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

【指導事項】

ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。

イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。

ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。

エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

【言語活動例】

ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。

イ 調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。

ウ 反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話合いや討論などを行うこと。

【「話すこと・聞くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○話題に対する自分の考えをまとめ、分かりやすく伝える。

○資料などを活用して説得力のある話をする。

◆論理の構成や展開を工夫して意見を述べる。

※すでに「読むこと」の単元において「水の東西」を学習しており、その際「比較文化」というテーマで並行読書を行っている。

【身に付けさせたい力】

①国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、言語感覚を磨く態度を育てる。〈国語への関心・意欲・態度〉

②話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して自分の意見を述べること。〈「話すこと・聞くこと」ア〉

③文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

【言語活動例】状況に応じた話題を選んでスピーチをしたり、資料に基づいて説明したりすること。〈ア〉

【単元名】「東西文化比較」のスピーチをしよう～論理の構成や展開を工夫して自分の意見を述べる～

【教材名・教材の特長】（「水の東西」 山崎正和）

・「水の東西」において既習の構成や表現方法を参考にすることができる。

・並行読書等を通して得た知識や情報を活用することができる。

【言語活動】

「水の東西」を参考に、東洋と西洋の文化を対比させる事物を選び、資料に基づいて文化の特徴を説明する。〈ア〉

【単元目標】

①資料に基づいて東洋と西洋の文化の特徴を説明することを通して、表現の効果について適切に判断する能力を向上しようとする。〈国語への関心・意欲・態度〉

②与えられたテーマについて、様々な角度から検討して自分の考えを持ち、根拠を明確にするなど論理の展開や構成を工夫して意見を述べる。〈「話すこと・聞くこと」ア〉

③文や文章の組立て、語句の意味、用法や表記の仕方を理解し、スピーチ原稿の作成に生かす。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動	
1			<p>「水の東西」を参考に「東西文化比較」のスピーチをするという目標を知り、材料を集める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表グループ（4人程度）を構成する。 ・「水の東西」で学習した文化比較を参考に、水に代わる事物を各グループで一つ選び、西洋文化と東洋(日本)文化を比較したスピーチを行うことを知る。 ・中学校で行ったポスターセッションやスピーチを振り返り、効果的な表現方法を確認する。 ・グループで話し合い、対象とする事物、そこから考えられる東西の文化について検討する。その際、各自が並行読書してきた作品の内容を出し合い、検討の材料とする。また、事例を伝えるのに適切な表現方法を考える。 	
2	<p>②与えられたテーマについて、様々な角度から検討して自分の考えを持ち、根拠を明確にするなど論理の展開や構成を工夫して意見を述べている。</p> <p>〈「話す・聞く能力」ア〉</p> <p>③文や文章の組立て、語句の意味、用法や表記の仕方を理解し、スピーチ原稿の作成に生かしている。</p> <p>〈言語についての知識・理解イ(イ)〉</p>	<p>構成メモ スピーチ原稿</p>	<p>スピーチ原稿を作成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ原稿を作成する際に参考にするという視点で「水の東西」の構成や表現方法を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・具体例を提示していたこと ・対比の特徴を簡潔に示していたこと ・論拠を明確に挙げていたこと ・写真が効果的に使われていたこと 等 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・確認した構成や表現方法から用いたい内容を選び、各自でグループのテーマに沿って構成メモを作成する。 ・構成メモにスピーチする内容を書き加えていく。その際、第1時に確認した効果的な表現方法を参考にする。また、「伝える」ということに視点を置き、文の組立てや語句の用法を吟味する。 ・各自が作成した構成メモを持ち寄り、「効果的に伝える」という視点で話し合い、グループの構成メモを作る。 ・構成メモを基にグループでスピーチ原稿を書く。その際、各自の分担を決め、全員が原稿を書くよう留意する。必要に応じてICT機器(プレゼンテーションソフト等)を活用してもよい。 ・各自が書いた原稿を合わせる。文末やつながりの言葉を整えて、グループのスピーチ原稿にする。 	
3				<p>スピーチの練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにスピーチの練習をする。 ・2グループでペアを作り、互いのスピーチを聞き合い、疑問点について質問し合う。 ・質問に答えるという視点でスピーチ原稿の修正を行う。 <p>1グループごとにスピーチを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手は評価カードに評価を記載する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・納得できる事例であったか ・分かりやすい構成であったか ・論拠は明確であったか ・適切な表現方法であったか 等 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループのスピーチを聞いた後、自分たちのスピーチについて振り返り、内容をカードに記載する。
4				<p>スピーチ 評価カード 振り返りカード</p>
5	<p>①資料に基づいて東洋と西洋の文化の特徴を説明することを通して、表現の効果について適切に判断する能力を向上しようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>			

【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ②「水の東西」のノートを振り返り、事例や特徴の対比を確認させる。〈ア〉
- ③書いた文章を声に出して読み合い、聞いた時に意味が通りにくい箇所や分かりにくい表現がないか確認させる。プレゼンテーションソフトやポスター等を用いる場合は、表記にも着目させる。〈イ(イ)〉
- ①スピーチに不安があるグループには、時間と場を設定し再度リハーサルを行わせる。〈国語への関心・意欲・態度〉